

(3) 水産の流通・加工の概況

本県水産加工業は、塩釜、石巻、気仙沼及び女川を中心とした大型産地への豊富な水揚げに支えられ、全国でもトップクラスの地位を築き上げてきました。国際的な規制により、本県漁業が北洋漁場から撤退した後は加工原魚の多くを海外からの輸入に頼らざるを得ない状況ですが、現在でも常に全国上位の生産を誇っています。

県内における平成16年の製造品の業種別出荷額を見ても、食料品出荷額(6,035億円)のうち、水産加工品は2,882億円と、実に食料品出荷額全体の48%を占めており、本県において極めて重要な地場産業であることが分かります。

イ 水産加工生産

水産加工業は、本県の地域経済を支える重要な産業として発展してきましたが、県内産地魚市場への水揚量が減少していること、輸入原魚への依存度が高まる中で世界的な水産物消費の増加により輸入原魚の安定確保が困難になっていること、そして国内消費の低迷などから生産量は年々減少しています。また、生産額においても、生産量の減少に加え、川下主体の価格形成を余儀なくされていることなどから減少傾向で推移しています。

本県における平成16年度の水産加工品生産量は38万6千トン(対前年比103.4%)生産額(水産加工品製造出荷額)では2,882億円(対前年比96.4%)となり、生産量では前年を上回ったものの、生産額は前年より低くなっています。

品目別で見ますと生産量では、塩蔵品(対前年比669トン・6.9%減)、干品(素干、塩干等)(同948トン・15.2%減)及びねり製品(同669トン・0.9%減)においては前年を下回りましたが、冷凍食品(対前年比4,154トン・9.9%増)及び冷凍水産物(同7,207トン・4.0%増)では増加しています。

一方、生産額では、ねり製品(対前年比43億円・8.7%減)、冷凍食品(同114億円・12.6%減)、冷凍水産物(同8億円・1.9%減)と、その他食用加工品以外は軒並み前年を下回っています。

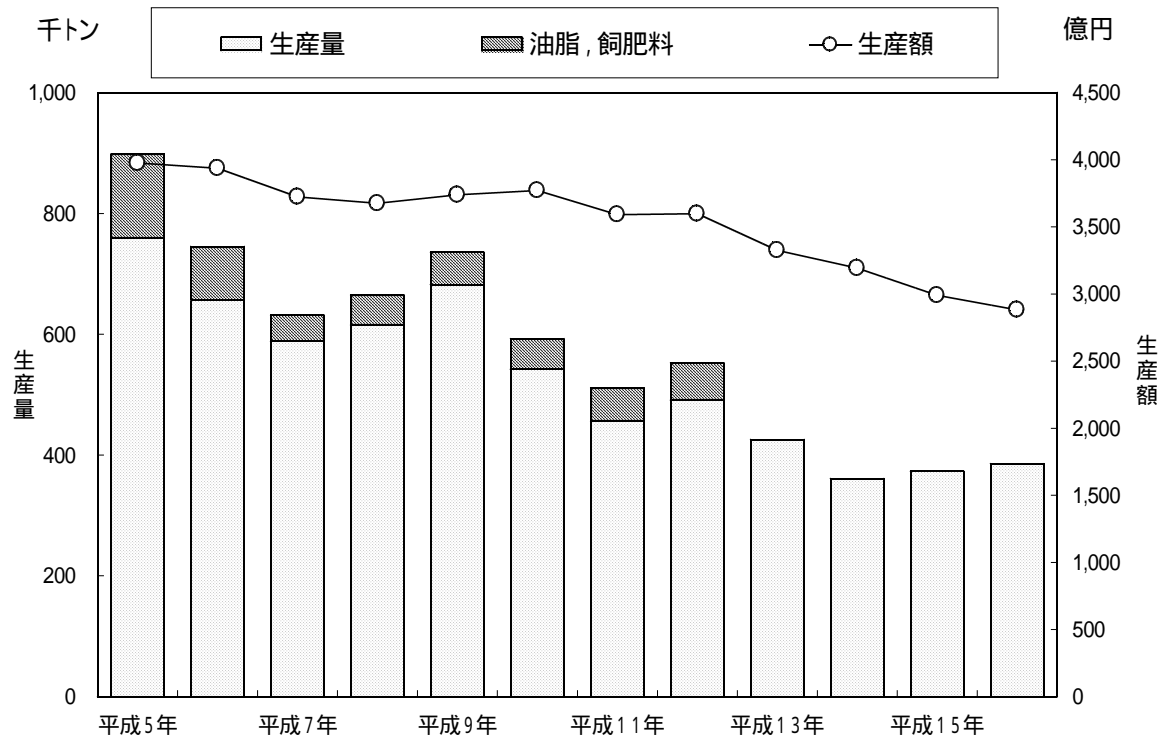
(単位：億円)

区 分	平成12年		平成13年		平成14年		平成15年		平成16年	
		%		%		%		%		%
電気製品	10,384	26.9	8,686	23.7	8,497	24.7	8,908	26.0	8,729	24.8
食料品	6,921	17.9	6,559	17.9	6,362	18.5	6,164	18.0	6,035	17.2
水産加工品	3,581	9.3	3,326	9.1	3,193	9.3	2,988	8.7	2,882	8.2
その他	3,340	8.6	3,233	8.8	3,169	9.2	3,176	9.3	3,153	9.0
その他製造品	21,346	55.2	21,343	58.3	19,504	56.8	19,228	56.1	20,372	58.0
計	38,651	100	36,588	100	34,363	100	34,300	100	35,136	100

資料：宮城県企画部「宮城県の工業」

(注) 平成14年に統計区分が変わったため、平成14年以降の「電気製品」は、「電子部品」、「電気機械」及び「情報通信機械」の合計値として示した。

表19 県内製造品出荷額の推移



資料：東北農政局統計部「宮城県漁業の動き」、宮城県企画部「宮城県の工業」

(注) 平成13年度から「油脂」、「飼肥料」の調査が中止されている。

図20 水産加工生産量及び生産額の推移

(生産量：トン，生産額：百万円)

区分	平成12年	(平成12年)	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年					
						県計	石巻市	塩釜市	気仙沼市	女川町	
生産量	練り製品	78,774	(78,774)	77,702	78,674	77,095	76,426	10,928	45,706	106	X
	冷凍食品	37,887	(37,887)	40,997	43,535	42,085	46,239	14,878	8,734	12,569	3,190
	干品(素干,塩干,煮干,くん製及び節製品)	4,300	(4,300)	5,377	6,650	6,256	5,307	X	X	X	X
	塩蔵品	28,507	(28,507)	27,559	33,879	31,459	29,289	10,915	10,968	2,176	3,537
	その他の食品加工品	48,859	(48,859)	44,392	42,669	37,728	42,704	10,464	10,611	17,546	283
	油脂、飼肥料	61,543	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	生鮮冷凍水産物	231,260	(203,344)	229,678	155,806	178,414	185,621	84,187	16,917	43,586	28,225
	計	491,130	(401,671)	425,705	361,213	373,037	385,586	133,013	93,927	76,805	39,164
生産額	練り製品	56,187	(55,963)	54,177	50,596	49,484	45,248	7,711	21,303	X	X
	冷凍食品	92,912	(92,784)	90,257	104,632	90,361	79,037	19,496	14,793	26,049	11,038
	その他の食用加工品	144,185	(142,914)	135,927	121,361	117,258	122,963	27,268	15,470	20,726	2,666
	冷凍水産物	66,460	(66,448)	55,251	42,715	41,695	40,895	19,496	X	11,227	8,805
	計	359,744	(358,109)	332,612	319,304	298,798	288,143	X	X	X	X
経営体数	615	(597)	571	537	519	500	140	131	90	36	

資料) 生産量：東北農政局統計部「宮城県漁業の動き」、生産額：宮城県企画部「宮城県の工業」(基礎資料)

(注1) 生産量については、平成13年から「調査対象を加工場又は加工施設があり、専従の従業員のいる経営体」としたほか、「油脂」、「飼肥料」、「寒天」及び「冷凍水産物」のうち「冷凍海産ほ乳類」、「塩蔵品」、「その他の加工品」の調査が中止され、加工種類及び調査品目についても追加・統廃合されている。

(注2) 生産額については、平成13年から従業員4人以上の事業所のみ調査となった。

なお、(平成12年)は平成13年以降との比較のため、従業員4人以上の数字のみ計上した。

表20 宮城県における水産加工品の生産状況

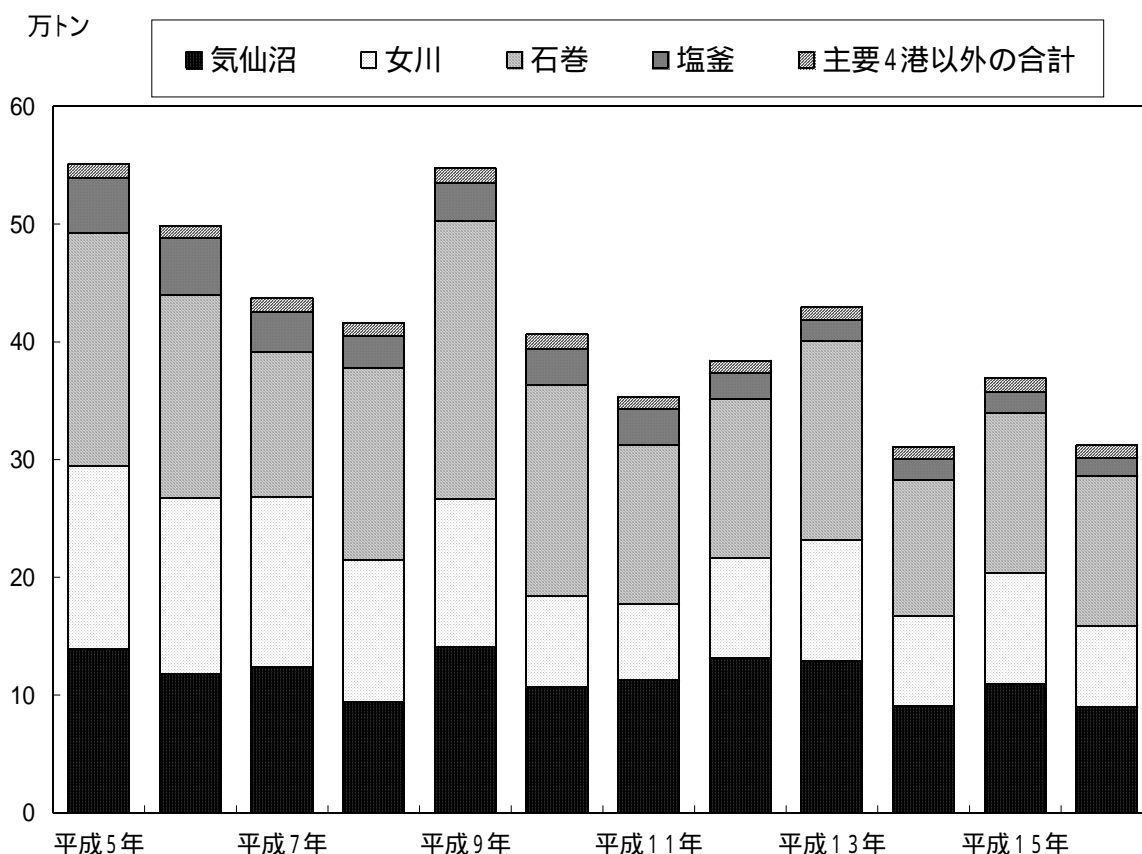
ロ 産地魚市場の水揚げ状況

本県には気仙沼、石巻、塩釜及び女川の主要4魚市場をはじめとした10か所の産地魚市場があり、そこに水揚げされる多種多様な水産物は、仙台や築地などの消費地市場を中心に全国各地へ出荷されています。しかしながら、沖合漁業の対象種であるいわし・さば類といった多獲性魚種の資源量が低位水準かつ減少傾向にあること、また、沿岸においても資源量が総じて低水準にあることなどから、本県産地魚市場における水揚量は年々減少しています。また、消費の低迷や安価な輸入水産物との価格競争等により水産物の水揚単価も全般的に低迷しています。

平成16年の本県産地魚市場における水揚量は、31万2千トンと前年と比較し5万7千トン・15.5%減少しました。金額は612億3千万円で、逆に24億6千万円・4.2%増加しています。

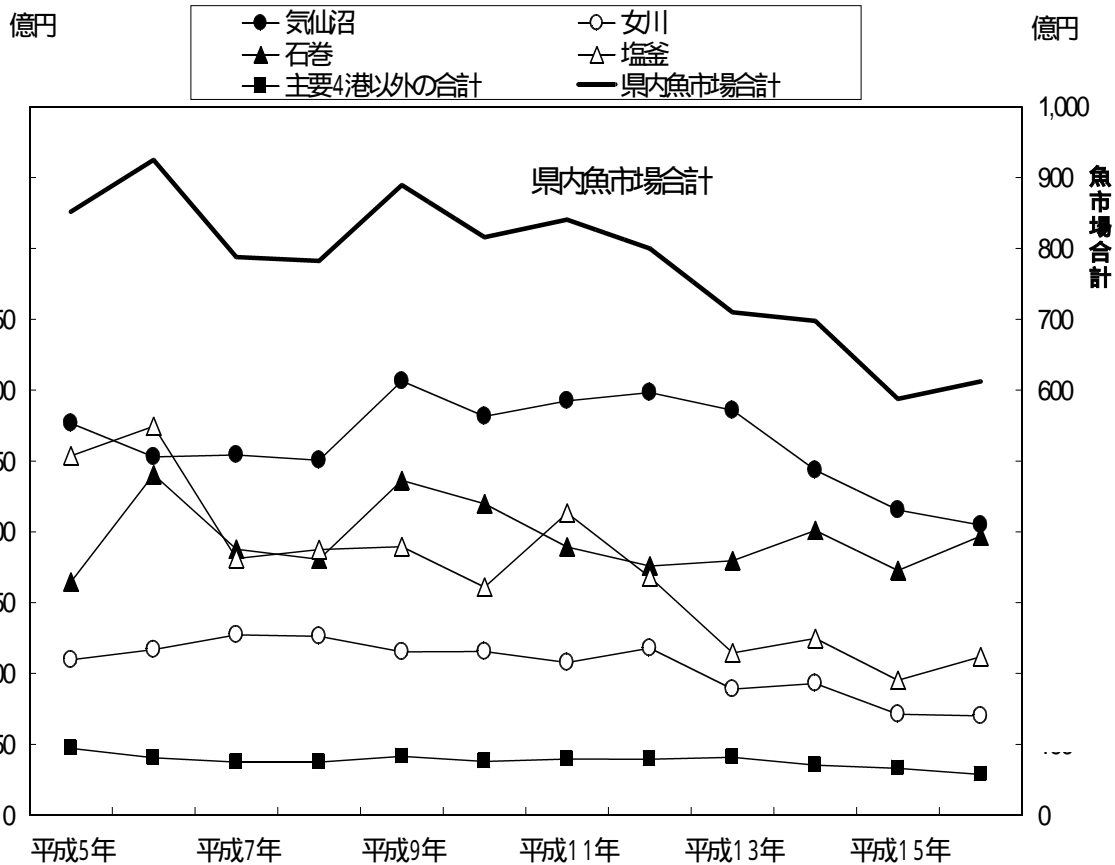
魚市場別に見ると、数量では主要4魚市場及びその他の市場合計とも軒並み減少していますが、金額では、石巻魚市場（対前年比24億2千万円・14%増）及び塩釜魚市場（同16億6千万円・17.4%増）が増加しています。

魚種別に見ると、水揚げ数量減少の要因としては、かつお、さんま及びいわし類の大幅な減少があげられます。逆に水揚げ金額の増加については、まき網漁業によるまぐろ類及びさばの増加、沖合底びき網漁業によるいか類の増加が大きく貢献しています。



資料：宮城県産業経済部「水産物水揚げ統計（属地統計）」

図2-1 県内産地魚市場の水揚げ量の推移



資料：宮城県産業経済部「水産物水揚統計（属地統計）」

図 2 2 主な産地魚市場の水揚額の推移

（水揚量：トン，水揚額：千円）

魚市場名	水揚量				水揚額			
		対前年比	県内船	県外船		対前年比	県内船	県外船
地方卸売市場塩釜市魚市場	15,829	86.1	6,493	9,336	11,176,276	117.4	3,059,514	8,116,762
地方卸売市場気仙沼市魚市場	89,855	82.4	34,437	55,418	20,479,785	95.0	8,343,640	12,136,145
石巻市水産物地方卸売市場	126,888	93.6	77,759	48,108	19,686,279	114.0	11,491,475	7,801,582
渡波地方卸売市場	158	70.9	158	-	72,086	81.1	72,018	67
女川町地方卸売市場	69,057	72.9	45,701	23,356	7,019,489	98.5	4,392,956	2,626,533
志津川町地方卸売市場	8,789	90.5	8,368	421	1,302,312	93.1	1,215,615	86,697
関上地方卸売市場	304 (11,034)	131.0	304	0	195,024	91.5	195,024	0
地方卸売市場	546	96.0	546	0	502,708	90.2	502,708	0
巨理町漁業協同組合魚市場	(24,198)							
牡鹿町地方卸売市場	422	67.6	422	0	161,702	41.3	161,702	0
地方卸売市場七ヶ浜町漁業協同組合花瀬浜魚市場	276 (38,076)	100.0	276	0	638,763	96.0	638,763	0
合計	312,124 (73,308)	84.5	174,463	136,639	61,234,424	104.2	30,073,417	30,767,785

資料：宮城県産業経済部「水産物水揚統計（属地統計）」

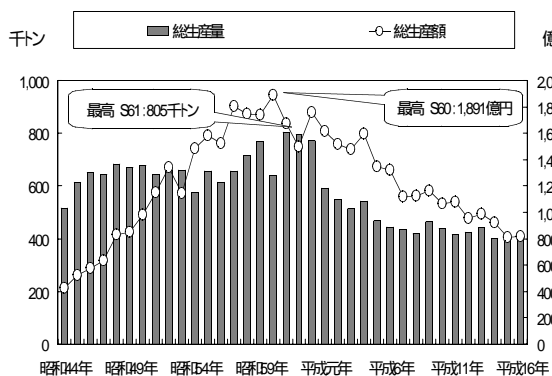
（注）水揚量の下段にある（ ）内の数値は、「養殖のり」の水揚量（枚数：千枚）を示す。

表 2 1 各産地魚市場の水揚（平成 1 6 年）

本県の水産物生産量の推移

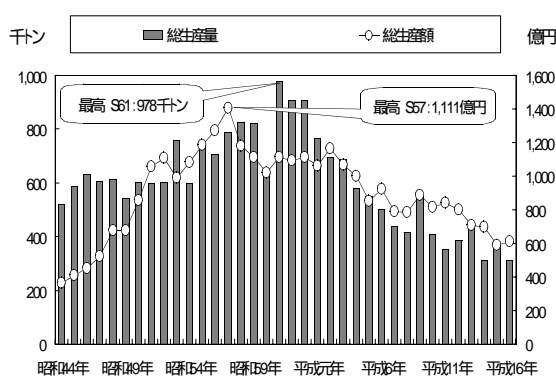
1 漁業生産と産地魚市場

本県では、遠洋・沖合・沿岸・養殖業など、多種多様な漁業が営まれており、我が国の水産物供給の拠点として重要な役割を担ってきました。しかし、国際的な漁業規制の強化、水産資源の減少、魚価の低迷、漁業経営体の減少などにより昭和50年から60年代のピーク時に比べ大きく減少しています。



資料：農林水産省統計部「宮城県漁業の動き」

図1 本県の漁業生産の推移

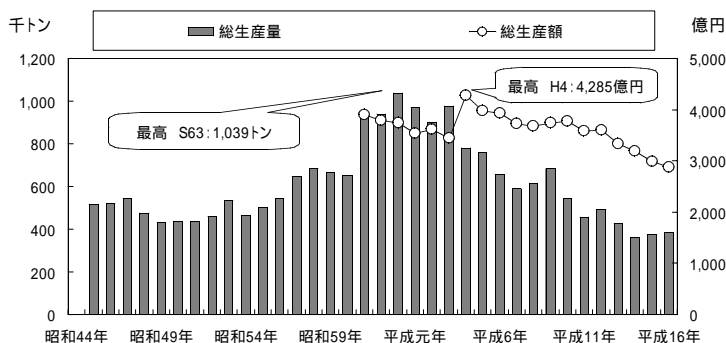


資料：宮城県産地魚市場「水産物水揚統計」

図2 本県産地魚市場における水揚の推移

2 水産加工生産

本県水産加工業も豊富な水揚に支えられ、全国屈指の地位を築き上げてきました。現在も本県の食料品製造出荷額全体の約半分を占め地域経済にとって極めて重要な役割を果たしていますが、消費動向の変化や景気低迷による販売不振などにより、生産量は減少傾向で推移しています。また、冷凍すり身など加工原料の多くを輸入していますが、近年、ヨーロッパやアジア地域での水産物需要の増大などから、加工原料の安定確保が難しくなっています。



資料：農林水産省統計部「宮城県漁業の動き」、
宮城県企画部「宮城県の工業」

図3 本県における水産加工生産の推移

産地魚市場を中心とした水産物産地流通拠点の整備

気仙沼・石巻・塩釜・女川の各魚市場は、全国有数の水揚げ量を有し県内はもとより全国に新鮮な魚介類を出荷しています。地域内には冷凍・冷蔵、水産加工、製氷・貯氷などの様々な水産関係施設が集積し、水産物の産地流通拠点としての機能を果たしています。

同時に、燃料・食料等の供給、包装資材関係、運輸関係など関連業種も含めて地域経済の中心としての役割を担っています。

県では水産物の安定供給や産地流通機能の高度化等を図る観点から、国と連携しこれら地域における産地流通拠点としての整備を支援しています。

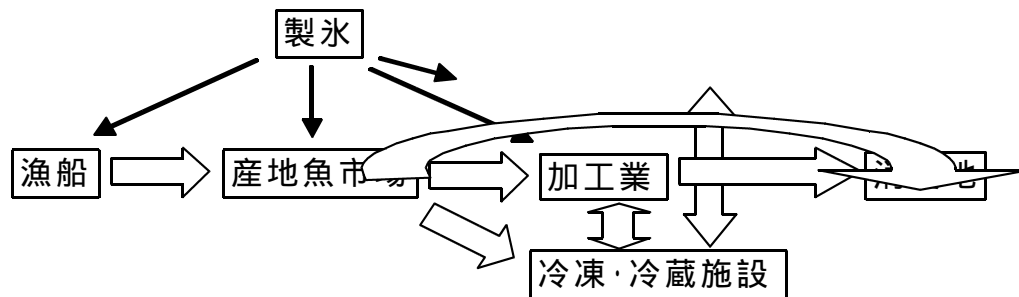


図1 宮城県内の産地魚市場を中心とした水産物等の主な流れ

産地流通加工拠点整備関連事業一覧（水産庁補助事業関係分）

年度	施設名	事業主体	総事業費
H元	残さい処理施設	気仙沼センター水産加工業協同組合	132
H2	廃棄物処理施設	(社)石巻市水産加工排水処理公社	146
H6	冷凍・冷蔵施設	渡波水産加工業協同組合	174
H7	冷凍・冷蔵施設	気仙沼漁業協同組合	362
H8	冷蔵施設	石巻市	1,863
H8	水産加工公開実験棟	宮城県	229
H9	廃棄物処理施設	石巻魚類協同組合	15
H15	冷蔵施設	気仙沼水産加工業協同組合	226
H16	排水・廃棄物処理施設	気仙沼センター水産加工業協同組合	474
H17	冷蔵施設	気仙沼冷凍水産加工業協同組合	309
H17	海水浄化施設	石巻市	123

事業費：百万円